

事業検証シート（公共交通の維持・確保）

基本目標	都市基盤	快適な暮らしや活発な経済活動を支える都市基盤が整ったまち		
施策名	交通手段の確保と道路空間の創出			
基本事業名	持続可能な公共交通網の整備			
事業名	公共交通の維持・確保			<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
目的	市民の移動手段として必要不可欠である路線バスなどの公共交通の維持・確保を図る。			
手段	補助要件を満たす路線バスや予約制乗合タクシーの運行、家用自動車による公共交通空白地有償運送を支援するとともに、市街地循環バスなどの実証運行に取り組む。			
事業開始年度	平成21	年度	事業終了年度	—
成果指標	現状値の推移			目標値
	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)
①平均乗車密度2.0を下回る補助対象バス路線数		①1路線	①1路線	①0路線
②予約制乗合タクシーの月当たり利用者数		②241人	②193人	②330人
③公共交通空白地有償運送の利用者数		③423人/年	③356人/年	③486人/年
④市街地循環バス・十和田湖支所シャトルバスの1便当たりの利用者数		④—	④1.6人	④2.0人
	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)
事業費 (単位：千円)	50,308	57,874	201,844	*
備考				
事業実績	実施内容			
	①路線バスを運行するバス事業者の運行欠損に対する補助 ②十和田市地域公共交通会議を組織し、予約制乗合タクシーを実施 ③公共交通空白地有償運送を実施するNPO法人への補助 ④市街地循環バス・十和田湖支所シャトルバス実証運行を実施			
	事業実績（成果指標以外）			
	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)
①路線バス補助対象路線数	①14路線	①15路線		
②予約制乗合タクシー運行地域数	②3地域	②3地域		
③公共交通空白地有償運送コース数	③8コース	③8コース	*	*
④市街地循環バス・十和田湖支所シャトルバス運行日数	④—	④81日		
事業評価	①路線バス補助金が増加傾向にある。また補助対象基準となる平均乗車密度が2.0を下回る路線が1路線残っている。 ②予約制乗合タクシーの利用者は、高齢者が多く、年々利用数が減少している。 ③公共交通空白地有償運送の利用者数は、前年度と比較して利用者が減少している。 ④市街地循環バスの1便当たりの利用者数は2.0人/便、十和田湖支所シャトルバスでは0.9人/便となっている。			
達成状況	<input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった <input type="checkbox"/> その他			
今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化を図る <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を改善して継続 <input type="checkbox"/> 事業の統廃合を図る <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 完了			
上記理由	少子高齢化により公共交通の利用者が減少しているが、交通弱者の足を確保していくための取組が必要とされるため。			
今後の改善内容	①バス事業者と協議し、平均乗車密度を満たすことができるようなバス路線の再構築を促す。 ②予約制乗合タクシー及び③公共交通空白地有償運送は、新規利用者の確保に向けた周知並びに停留所等の見直しを行う。また、②については利用登録者に対しアンケートを実施し、よりニーズに合った運行となるよう見直しを検討する。 ④運行期間、経路、時刻等を見直し、実証運行を再度実施する。			